

JRひがし労仙台 業務部情報

2020年2月13日

N O , 0 5 0

JR東労働組合仙台北本業務部

発行責任者：横山裕介

申13号 36協定遵守と適正な要員配置・年次有給休暇の取得を求める申し入れ交渉経過②

3項：山形運輸区においては年休を流してしまう状況の乗務員が多くいる。申請をしている社員が年休を流すことのないようにすること。

《回答》年休の取り扱いについては法令に基づき適正に取り扱っている。

(会) 年間5日間取らなければならないので、2月、3月で5日取得を調整しているところである。

(組) 優先順位決まっているものはあるのか。職場の声だが、冠婚葬祭も優先されなくて、泊まり勤務の部分が入らなくて日勤行路だけに入ったという方がいた。業務上仕方ないかもしれないがおかしいではないかという声が上がっている。

(会) 泊りのところになるとどうしても2日間年休を使用してもらおう形になる。その日1日だけとなれば日勤の方が入りやすいという言い方ではなくて、たまたまその指定が出来るということはある。

(組) 本当であれば、余裕を持った要員を確保していくということに繋がる。実際、山形運輸区では年休を流してしまう人がかなりいる。それはどうなのかと思う。権利なのに申し込んでも使えないで流してしまう状況は問題だと思うがどのような認識なのか。保存休暇に入る部分はいいとして、申し込んで人が使用できず、流してしまうというのは会社として問題なのではないか。

(会) そこは要員というのは会社としてきちんと見ているし、年次有給休暇の取得に関しても管理している。どうしても輻輳したときは入らないということをご理解いただきたい。ただ、わざわざ入らないようにしている訳ではない。休日も年次有給休暇も加味しての要員数というのは取っている。あとは、社員の方によっては取りたいという方もいれば仕事をしたいという方もいるので、そこはルールとして5日以上取得ということが決まったので、仕事したいという方にも協力を頂いてということではある。

(組) 会社は5日取ったら法令上問題ないので、あとは致し方ないという回答ということなのか。

(会) そのような回答ではない。それは年次有給休暇の趣旨であったりということと照らし合わせれば、本人のライフスタイル、仕事のスタイルに合わせて取得してもらうのが良いという認識である。

(組) 現場の意見だが、年休を取得するためにホテルに泊まっている人がいる。月末0時に申し込めるようにホテルを取っているという状況もある。休勤する人も減った。職場風土が悪くなっていく。仕事にも余計な雑念が絡んでくると、危険なものに繋がりがねない。そこで働く人たちのモチベーションを上げるためにも、このようなことを解決していかないと現場は疲弊していく。早急には出来ないことも承知しているが、何とか早急に改善したいという想いがこちらにはある。そこは認識一致を図りたい。

(会) 当然ながら年次有給休暇の取得率も会社の方で把握しているし、各勤務に関する勉強というのでもより力を入れていかなければならないということも認識しているので、勤務作成などのレベルを上げていく勉強会というのでも開催していきたい。

社員の権利の年休を取得できずに流してしまう事の問題を強く指摘しています。

6項：年休付与のための休日労働を削減するためにも、計画的な車種転換の要請を行うと共に、適正な要員を配置すること。

《回答》業務に必要な要員は確保しているところであり、引き続き計画的に乗務員の養成を実施していく考えである。

(組) 転換には出せていない現状がある。

(会) 転換教育するにもある程度の余裕が必要。出せるぎりぎりのラインの余裕しかないということ。転換に限らず研修等含め出席できるようにするためにも、乗務員の養成も次年度辺りから変わっていくという話なので。回数とか。その辺も見つつ、新規の配属数であるとかを見て、山形運輸区の要員に関しては問題意識を持っている。その辺をきちっと査定して検証していく。